

## 《推薦入試》

生徒会の最大行事である野岸祭も無事に終わり、学校も少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。三年生にとっては、いよいよ本格的に自分の進路について考えなければならない時期がやってきました。懇談会を通じて保護者と考えを統一しておいて下さい。誰もが通る道です、焦ることなく一步一步確実に進めて行きましょう。

さて、今回は推薦入試について説明します。近年の入試制度はとても多種多様であり、学校によって様々な入試形態をとっています。推薦入試はその一つであり、大学側はペーパーテストでは計れない人材を確保したいと考え多くの学校で積極的に取り入れています。

推薦入試は大きく【指定校推薦】と【公募制推薦】の2つに分けられます。

【指定校推薦】過去の先輩方の入学実績などを考慮し、大学側が出願できる高校を指定する制度である。多くの学校で成績の基準（評定平均値）が示されており、原則この基準を超えていないと出願できない。その他欠席日数も条件の中に入ってきます(特に専門学校は厳しい)。選考方法は書類審査、面接、小論文を総合的に判断するところが多い。基礎学力試験や実技試験を課すところもあるので注意が必要である。言うまでもなく専願である。本校の推薦会議で出願が認められればほぼ合格が得られる。

【公募制推薦】出願条件を満たし、学校長の推薦を得られる者は誰でも出願できる制度である。「一般推薦」と「特別推薦」に分けられる。「一般推薦」は調査書の評定平均値が重視されるが、「特別推薦」はクラブ活動、ボランティア活動、資格取得などに重きが置かれる。国公立大学は専願、私立大学も多くは専願であるが併願を認めている学校もある。選考方法は書類審査、面接、小論文を総合的に判断。センター試験を課す国立大学もある。指定校推薦に比べると合格の可能性は下がる。

## 《推薦入試の上手な利用方》

まず、自分の入りたい学校を探す（入れる学校ではありませんよ）。学力をつけて一般入試で合格を勝ち取るのが理想ですが、希望する学校を一般入試で突破するには難しい場合で、本校に指定校依頼があり、成績が基準を満たしていたら積極的に利用しましょう。また、ペーパーテストでは自分の力を発揮できないと考えている人は小論文と面接に力を入れ推薦入試にチャレンジしましょう。

指定校は限られおり、自分が志望する学校がない場合が多いわけですから、安易に指定校一覧の中から学校を選ぶというのは正しくありません。さらに指定校推薦は次年度以降の入試にも影響がありますので責任を持って大学生活を送ることのできる者が対象となります。

公募制推薦では結果が良くなかった場合のことを考えておく必要があります。不合格の後、次の学校を検討するのでは遅いのです。推薦で併願できる学校、推薦入試の時期がずれている学校、一般入試などを視野に入れ、少なくとも第3希望までの受験スケジュールを作る必要がある。

次に種別ごとに説明します。

『大学』・・・ 国公立大学の指定校はありません。国公立大学を目指している者はセンター試験に向けて勉強をすることが大前提ですが、推薦入試も受験機会と考え積極的にチャレンジして欲しい。国公立大学の推薦入試は一枚から出願できる人数が1～2名というところが多く注意すべき点である。また、学力試験としてセンター試験を課す学校も多く、近年推薦入試も学力重視へと変化する傾向にある。

私立大学はそれぞれの学校で基準が異なる。全体評定平均値以外にも指定教科の評定、資格検定の有無などが基準になっている学校があります。私立大学は過去問を入手して出題内容や形式を調べ、そこに重点を置いた学習をし、対策を立てることが大切です。

『短大』・・・ 公立短大の指定校もあります。長野県短期大学の指定校はありません。一枚から出願できる人数に制限があるため枠推薦などと呼んでいますが、公募制推薦になります。

短大は募集定員の大半を推薦入試で確保しているので、ハッキリと志望の固まっている者は『指定校』を積極的に取り入れて良いと思います。更に特待生(入学金、授業料の減免制度)にもチャレンジしてみましょう。今春の卒業生は県内の短大に多く進学しています。

※公募制推薦については『全国大学・短期大学推薦入学年鑑(栄美通信)』を参考にして下さい。

『専門学校』・・・看護医療系以外は指定校推薦でなくても十分合格できる。ただし、指定校推薦では入学金などの免除制度があるので利用できるものは上手に使おう。欠席日数を推薦条件にしているところが多いため注意が必要である。

## 《夏期休業中の過ごし方》

【3年生】：自分の進路に向けて焦ることなく一步一步確実に進めて行こう。

オープンキャンパス、学校説明会への参加はもちろんのこと、志望校の入試形態を調べ小論文、面接練習など少しでも早く取り組むことが必要です。もちろん一般入試を見据えて一般科目の学習も怠らないことです。受験までの計画をしっかりと立てましょう。

【2年生】：就業体験、オープンキャンパスを通して自分の進路としっかりと向き合おう。そこから進路に対する取り組み方、考え方が変わって行ってくれることを期待しています。進学を考えている者はこれを機会にオープンキャンパスや進路ガイダンスにどんどん参加して、将来就きたい職業、興味のある分野、自分の適性などを考慮して志望校を決めて行きましょう。夏期休業中の勉強の仕方でも進路実現が大きく変わります。

【1年生】：入学して3ヶ月が過ぎました。高校の授業にはついていけていますか？夏休みを上手に使い、苦手科目の克服、得意科目のさらなるレベルアップに努めよう。3年生が進路を考える時に思うことが、1・2年生の成績がもう少し良かったらということです。今から、出欠席や授業への取り組みに十分注意をしていこう。また、教科担任に学習の仕方を教えてもらうことも大切です。

## 《推薦入試合格対策》

推薦入試では ①書類（調査書・推薦書・志望理由書）②小論文 ③面接 ④学力試験が重要になります。それでは一つ一つ見て行くことにします。

### ①書類（調査書・推薦書・志望理由書）

【調査書】3年間の成績、出欠状況、活動状況などが記されている。成績はそれぞれの科目が5段階評定で記されている。推薦入試の提出書類の中で最も重要なものであるといってもよい。  
※作成するのは担任の先生だが、成績や出欠状況はみんなの努力が必要です。

【推薦書】担任の先生が作成

【志望理由書】受験生が作成する書類の中で最も重要。志望理由書をもとに面接が行われるので、しっかりと作成されていれば面接での質問内容をある程度は推測できる。合否を左右する重要なものなので出願間際に慌てて用意するのではなく、時間をかけて書きあげよう。

### ②小論文

教科の中に無いので、書き方の指導を受けないとなかなか上手くは書けないものである。

小論文には、テーマ型、課題文型、図表型、課題文型と図表型を合わせた資料総合分析型などさまざまな出題形式がある。志望校の出題形式に合わせかなりの練習を積まなければならない。

それには数年分の過去問を解き、書いては指導を受け、書き直すことを繰り返し少しずつ進歩していくことがカギとなる。推薦を考えている者は少しでも早く取り組む必要がある。

### ③面接

推薦入試の最終合否は面接にあり。面接で評価されるのは、質問への応答力だ！志望理由は用意して行けるが、予想もしなかった質問をされたときに慌てずに答えられるかが重要です。

国公立大学と私立大学では面接の目的や内容に違いがあります。国公立大学では学問的資質を重視し、口頭試問という形式で学力や適性・意欲を見ようとしている。これに対して私立大学では志望の熱意やバイタリティ、自主性の有無を見ています。推薦入試では同じ学科や研究室においてリーダーシップを発揮してくれる生徒を欲しがっているのです。一定のテーマを与えグループディスカッションを課す学校もあります。模擬面接を繰り返し、自信を持って臨みましょう。

また、日頃からニュースを見たり、新聞を読むなど世の中の情勢にも関心を持ってください。

### ④学力試験

近年の推薦入試は学力重視の傾向が見られ、『センター試験を課す推薦』を行う国公立大学が増えています。国公立大学への推薦志願者は『センター試験を課さない推薦』であっても10月上旬のセンター試験出願は必ずしておきましょう。『センター試験を課す推薦』『センター試験を課さない推薦』『前期日程』『後期日程』と最大4度、同一大学を受験することもできます。国公立大学志願者は推薦入試も一つの受験機会と捕らえチャレンジしてみたい。

私立大学への推薦志願者も一般入試を想定してセンター試験への出願を忘れないこと。

※国公立大学の受験スケジュールを挙げてみました。(信州大学を例に挙げました)

○AO入試

・農学部 森林科学科 出願 9/24 ~ 9/30 試験 10/13 11/4・5 発表 11/11 (推薦も出願可)

○センター試験受験申込 9/29 ~ 10/9

○国公立大学推薦入試(センター試験を課さない推薦)

・工学部 出願 11/4 ~ 11/7 試験 11/18 発表 11/27

○国公立大学推薦入試(センター試験を課す推薦)

・工学部 出願 12/15 ~ 12/19 試験 1/28 発表 2/6

○センター試験 1/17・18

○私立大学の併願 1月中旬から2月中旬(さらに3月下旬まで行っている大学もある)

○国公立大学一般入試(前期日程)

・信州大学 出願 1/26 ~ 2/4 試験 2/25 発表 3/6 (入学手続きをすると後期は受験できない)

○国公立大学一般入試(後期日程)

・信州大学 出願 1/26 ~ 2/4 試験 3/12 発表 3/20 (出願は前期と同時)

※私立大学の入試方式・受験方法

【センター試験利用入試】センター試験1回の受験で、複数の私立大学に出願できる。一般入試に比べ受験料が安く、遠い試験会場に行く必要がないので費用も削減できる。個別の入試対策が不要である。

【学外試験会場】地元長野で受験することができる大学も多い。

【試験日自由選択制】複数の試験日から自分の都合のよい日を選んで受験できるので、併願校の受験スケジュールを立てやすい。すべての試験日に出願することもできるので受験機会を増やせる。

【全学部日程入試】全学部・学科が同じ日に共通の問題で行う一斉試験。併願校との受験スケジュールが立てやすい。

【学内併願】同じ大学に何度も挑戦することで、合格の可能性が広がる。

※今年本校に依頼のあった指定校の一部を紹介します。(指定校一覧は進路指導室前に掲示)

大学 同志社大学 文学部 国文学科 国語の評定平均値が4.1以上である者  
東京電機大学 理工学部 理工学科 評定平均値3.7以上  
大東文化大学 文学部 評定平均値3.3以上  
長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 評定平均値3.5以上  
佐久大学 看護学部 看護学科 評定平均値4.0以上

短大 大月短期大学(公立) 経済学科 評定平均値3.5以上  
清泉女学院短期大学 幼児教育科 評定平均値3.4以上  
上田女子短期大学 幼児教育学科 評定平均値3.2以上

専門学校 佐久総合病院看護専門学校 看護学科 評定平均値4.4以上

《入試用語集》河合塾 Kei-Net より引用

【AO入試（アドミッション・オフィス入試）】 詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試。

【アドミッション・ポリシー】 大学または学部等が示す入学者受入れ方針のこと。大学の教育理念や特色等を踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたものであり、入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。

【インターネット出願】 入試の出願をインターネット経由で行うこと。インターネット出願（ネット出願）にすると、従来の郵送出願に比べ受験料を割り引く大学が出てきたことなどから、大学入試ではここ2・3年で急速に広がりを見せている。

【オープンキャンパス】 大学が高校生・受験生やその保護者向けにキャンパスを開放し、学内見学会、入試説明会などを実施するイベント。学生が相談役やキャンパス案内などに参加しているところもあり、志望校の雰囲気を感じることができる。

【学生募集要項】 大学入試に出願するための情報（試験日・合格発表日、試験会場、試験科目・配点など）とともに「入学願書」が添付されている資料で、「募集要項」「入学試験要項」などとも呼ばれる。

【大学入試センター試験】 共通一次試験に代わって、1990年度入試から導入された共通テスト。毎年、1月中旬の土曜・日曜の2日間で実施される。毎年50万人以上が受験する国内最大規模の試験である。国公立大学一般入試を受験するには、原則としてセンター試験を受験しなければならない。また、多くの私立大学・短期大学入試においても、センター試験を利用する入試方式が設定されている。

【特待生（奨学生）入試】 大学進学にともなう経済的負担の軽減を目的に実施される入試。特待生・奨学生に採用されると、一般的には入学金・授業料などの学費の一部または全部が免除される。

【評定平均値】 大学入試の資料の一つである調査書の記載項目の一つで、「各教科の評定平均値」と「全体の評定平均値」がある。「各教科の評定平均値」は教科内の各科目の評定（5・4・3・2・1の5段階評価）の合計数を各教科の評定数で割った数値、「全体の評定平均値」は履修した全教科・科目の評定の合計数を全ての評定数で割った数値で、小数点以下第1位までで表される。評定平均値をもとに学習成績概評が算出される。

【分離分割方式】 国公立大学の2次試験で、「前期日程」「後期日程」の2つの日程に募集人員を振り分けて選抜する方式。受験生は日程ごとに出願先を変えることができ、同じ大学を2回、または別々の大学を受験することも可能。

【編入試験】 大学、短大、専門学校を卒業した者、または大学2年次まで終了した者が他の大学・学部に入るための試験。

【ボーダーライン】 合格可能性や総点における合格最低点を数値で示したもの。